

教育システム情報学における研究と開発の橋渡し - Win-Win となる産学連携に向けて -

オーガナイザ：長谷川 忍（北陸先端科学技術大学院大学），
平 治彦（日本データパシフィック株式会社），米谷 雄介（香川大学），
卯木 輝彦（関西外国語大学）

教育システム情報学会は、設立から 50 年を迎え、「教育システム情報学」と社会との関係性の再構築を模索する新たなステージに立っています。産学連携委員会ではこれまで、教育に関わる ICT 活用やラーニングアナリティクス(LA)、EdTech といったキーワードのもとに、教育現場と情報技術の接点を模索してきました。しかしながら、研究成果が現場に届かない、あるいは企業の先進的な取り組みが研究に活かされないといった「研究と開発の間のギャップ」は依然として大きな課題として残されています。

本プレカンファレンスでは、こうした課題を共有し、「研究」と「開発」の距離を縮めることを目的に、「教育システム情報学における研究と開発の橋渡し」というテーマのもと、産学連携のあり方について再考します。具体的には、大学・研究者側の教育的・社会的ニーズ、そして企業側の技術・ビジネスの視点とを交差させ、Win-Win の関係を構築するための対話の場を設けます。

第一部では、本学会 50 周年記念を記念してご協賛いただいているプラチナスポンサー各社より、現在注目している教育関連の課題や新たな取り組みについて講演をいただきます。企業が直面している教育市場での課題、AI やデータ利活用などの新技術導入における課題、そして社会課題との接続といった視点を通して、企業が今、研究者に求めること、協働できる可能性について具体的な示唆を得ることを目指します。

第二部では、2015 年から開催されている「ラーニングイノベーションングランプリ」の概要と、そこで優秀賞等を受賞したアイデアやシステムについての発表を行います。教育現場の課題に対する斬新なアイデア、あるいは既存の技術を応用した新たな価値の創出について、現場の声と企業の視点、そして研究者の視点を交差させながら議論します。こうした実践に即した取り組みを通して、研究と開発の“接点”がどこにあるのかを見出していきます。

また、デモンストラクションタイムを設け、実際の研究や製品・サービスに触れながら、研究成果がどのように技術として社会に展開されているのか、あるいはその過程でどのような困難があるのかについて意見交換を行います。ここでは参加者が実際に体験・観察することで、研究の社会実装に向けた課題を具体的に理解することを狙いとしています。最後に、参加者全員で「今日の気づきをどう今後の本学会の産学連携に活かすか」というテーマで、次のアクションプランを話し合うラウンドテーブル形式の意見交換を実施します。ここでは、単なる課題共有にとどまらず、学会内外でのプロジェクト創出や研究テーマの設定、リクルートやインターン連携といった具体的な連携の可能性も議論の対象とします。

本プレカンファレンスは、単なる企業展示や講演会ではなく、「産」と「学」が一体で共創しあう未来を模索する場です。教育という社会的インフラのイノベーションを進めるために、今何が必要か、そして本学会がどのように貢献できるかを真摯に考える時間として、多くの皆様のご参加とご意見をお待ちしています。